

企業市民活動

ニコンの企業市民活動	149
主な取り組み	150

ニコンの企業市民活動

基本的な考え方

ニコングループは、良き企業市民でありたいと願い、社会や地域とともに発展するため、「ニコン企業市民活動方針」に基づき、主に次の世代を対象とした活動を推進しています。

ニコン企業市民活動方針

ニコンは、企業理念である「信頼と創造」を具現化するための行動の規準を示した「ニコン行動規範」において、社会貢献活動への参加を積極的に推進することを表明しています。

ニコンは、よき企業市民でありたいと願い、社会やコミュニティの一員として良好な関係を構築し、共に持続的に発展していくため、次の方針に基づき企業市民活動を行っていきます。

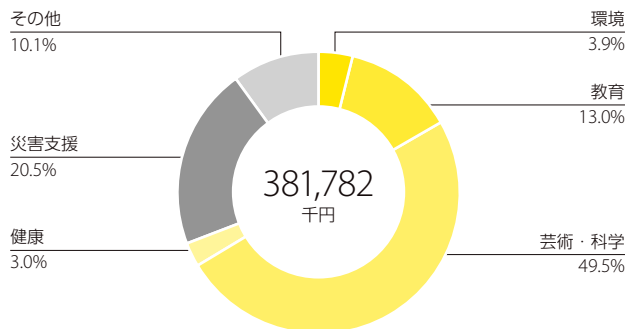
1. 「環境」「教育」「芸術・科学」「健康」を注力分野とし、主に、次の世代を対象とした活動に取り組みます。
2. ニコンの持つ技術やノウハウなどのリソースを効果的に活用していきます。
3. 公益の増進、社会課題の解決、学術の進歩や普及に取り組む組織（行政機関、教育機関、NGO・NPOなど）と協力関係を築き、連携を図ります。
4. 企業市民活動への従業員の参加を重視し、従業員による活動の機会をつくることに努めます。

体制

ニコングループでは、サステナビリティ委員会を中心としたサステナビリティ推進体制の中で、グループ全体の企業市民活動を推進しています。なお、年1回のニコングループ企業市民活動調査により、ニコングループ各社の取り組みが方針に沿っているかモニタリングし、その結果をサステナビリティ委員会に報告しています。さらに、寄付に関しては、内規に則ってニコングループの実態を仔細に把握し、取締役会に報告しています。

サステナビリティ推進体制 (→ p.013)

● 企業市民活動の支出額(2022年度)



企業市民活動への従業員参加

ニコングループでは、従業員が企業市民活動へ参画するための環境づくりに取り組んでいます。ニコンの「ボランティア休暇制度」のように制度によるサポートを行うとともに、従業員が参加しやすい活動を企画し、参加を呼びかけています。

● ニコングループの企業市民活動の従業員参加人数

2022年度実績(のべ)	3,974名
--------------	--------

主な取り組み

地球環境を次の世代へつなぐ

ニコングループでは、地球環境を次の世代へつなぐことをめざし、子どもたちへの環境啓発活動に取り組んでいます。

ニコンでは、生物多様性復元計画「赤谷プロジェクト」の支援の一環として、子どもたちに向けた冊子『赤谷ノート』を企画・制作して無償で配布しています。2022年度は、教育機関に100冊を配布しました。また、Nikon Europe B.V.では、国際環境教育NGOのFoundation for Environmental Education (FEE)のオランダ支部と協働し、ニコンの実体顕微鏡「ファール」を使った環境教育プログラム「Light on Small」を提供しています。2022年度は、オランダ国内の1,000名の子どもたちがこの教材を活用しました。

生物多様性保全・復元への支援 (→ p.093)

● ニコングループの環境啓発の取り組みに参加した子どもたち

2022年度実績	1,175名
----------	--------



環境教育プログラム「Light on Small」で活用されるニコンの実体顕微鏡

Column

子どもたちに森と水辺の生きものの観察体験を提供

ニコンビジョンは「いきもの観察 DAY」と題した活動を2022年度から開始しました。この活動は、生きものの観察体験を通じて子どもたちに理科学習の楽しさや環境保全の大切さを伝えることをめざし、自然保護団体の公益財団法人日本野鳥の会と協働して行われました。森と水辺での観察をテーマに、都市にほど近い緑地保全区域と海浜公園で年2回行われた活動には、のべ153名の親子連れが参加しました。

活動では、子どもたちは日本野鳥の会のガイドのもと双眼鏡や実体顕微鏡を使った野鳥や昆虫の観察を体験しました。また、海浜公園での活動では、海洋プラスチック問題のワークショップや海岸清掃にも取り組みました。ニコンビジョンは、自社製品の双眼鏡や実体顕微鏡の貸し出しや、従業員ボランティアによる双眼鏡の使い方レクチャーなどにより、子どもたちの観察体験をサポートしています。

ニコンビジョンは、これからも年2回、「いきもの観察 DAY」を開催していきます。子どもたちが身近な自然に暮らす生きものに触れ、環境保全の大切さや生物多様性について考えるきっかけにつながっていくことを期待しています。



ニコンビジョンの水辺での活動は2023年3月に開催。干潟での野鳥観察とともに、海岸清掃も行った

子どもたちが将来を描くために

ニコングループでは、自社製品に関わりのある地域を中心に、経済的な理由で学校に通うことが困難な子どもたちの就学支援に取り組んでいます。

ニコン、Nikon (Thailand) Co., Ltd.、Nikon Lao Co., Ltd.の3社では、国際NGOを通じタイとラオスで奨学金を支給しています。タイでは、2022年度に中・高校生と大学生170名に奨学金を支給し、16年間の支給人数はのべ2,747名となりました。ラオスでは、毎年100名の中学生に奨学金を支給しており、9年間での支給人数はのべ900名となりました。また、国内ニコングループは、開発途上国の子どもたちの健康の向上とともに、通学のきっかけにつながる、国際連合世界食糧計画(国連WFP)の学校給食支援に協力しています。2022年度は、173名の1年間の通学を支えられる学校給食43,273食分の1,298,186円を寄付しました。

● ニコングループの就学支援で学校に通えた子どもたち

2022年度実績	443名
----------	------



タイの奨学金は公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、タイのシーカー・アジア財団を通じて支給しています。写真は、2022年11月に実施された授与式の様子。

Column

日本から絵本を届ける活動～ラオス語絵本づくり

国内ニコングループでは、特定非営利活動法人ラオスの子ども(Action with Lao Children、ALC)の「ラオス語絵本プロジェクト」に参加し、従業員のボランティアによる「ラオス語絵本づくり」に取り組んでいます。この取り組みは、日本語の絵本にラオス語の翻訳を貼り、ALCを通じてラオスの学校の図書室などへ絵本を届ける活動です。

ラオスでは、日本のように書籍や書店が多くなく、子どもたちが本に触れる機会が限られています。そこで、日本でできるラオスへの教育支援として2017年度から活動を始め、5年間にわたり継続しています。この3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響から、自宅でできるボランティアとして募集、活動しています。2022年度は、のべ108名の従業員が参加し、272冊の絵本をラオスに届けました。



従業員ボランティアがラオス語の翻訳を切り貼りして作った絵本

未来を拓く次の世代を応援

ニコンは、写真文化発展への貢献のため1969年から国際写真コンテスト「ニコンフォトコンテスト」を主催してきました。このコンテストでは、年齢、国籍、経験、撮影機材のメーカーを問わず、表現者が伝えたいメッセージを共有する機会を時代の流れに沿った部門構成で提供し続けています。また、ニコンイメージングジャパンは、写真文化の普及・向上を目的に1968年に開設した写真展示場「ニコンサロン」の運営を続けています。「ニコンサロン」では、プロ・アマの壁を取り払い、企業戦略に影響されず、あらゆる分野の優れた作品の展示場として写真展本来の姿を追求するとともに、新進写真家による最も優れた作品展に対し「三木淳賞」を1999年から継続して贈呈するなど若手写真家支援活動に取り組んでいます。Nikon Imaging Korea Co., Ltd.でも、2008年から毎年、Parkgeonhi foundationが主催する「Daum Junior Photo Festival」に協賛し、写真に関心のある若者の才能を開発するプログラムをサポートするなど、海外グループ会社においても映像文化に関わる次世代を支援するさまざまな取り組みを行っています。

次世代の産業人材の育成では、ニコンは東京大学生産技術研究所に開設する「ニコンイメージングサイエンス寄付研究部門」により次代の光学産業をリードする技術者の育成に協力してきました。2023年度からは、この寄付研究部門を発展させた「ニコン 光・精密フロンティア寄付研究部門」を新設し、次世代の人材育成に貢献するとともに、将来的に社会が求める価値を生み出すため、社会実装につながりうる研究テーマの創出をめざしていきます。また、ラオス国立サバナケット大学でのニコン・JICA奨学金では、将来のラオスを支える人材育

成の支援と併せ、日本語の分かる産業人材の育成のために日本語学科の教育環境の向上にも協力しています。海外グループ会社では、アディティブマニファクチャリングの設計および製造を行う米国のMorf3D Inc. が、得意とする積層造形に関する大学生への講義のほか、技術者になるためのキャリア形成のあり方を学べる高校生向けのイベント開催などに取り組んでいます。

● ニコングループの人材発掘・育成の取り組みに参加した人数

2022年度実績	10,239名
----------	---------



ニコンイメージングジャパンが運営する写真展示場「ニコンサロン」



韓国の「Daum Junior Photo Festival」の写真講習会に参加した若者たち



米国のMorf3D Inc.の従業員と、従業員の講義に参加した大学生たち

Column

国立高等専門学校校の学生への奨学金を設立

2022年度、ニコンは、国立高等専門学校機構と協働して国立高専の学生に向けた奨学金を設立し、2023年度に入り、第1期の奨学生の募集を行いました。

ニコングループが2030年のありたい姿に掲げる「人と機械が共創する社会」をともに築いていく次世代が増えていくことを願い、日本の将来の産業基盤を支える理工学系人材の育成に寄与していきます。

ニコンは、奨学金の給付のみならず、教育の観点を踏まえた学生たちとのコミュニケーション施策を盛り込みながら、この取り組みを進めていく計画です。

地域の幸せを未来に受け継ぐ

ニコングループでは、より良い地域を未来へ受け継ぐことを願い、地域の人々の幸せと健康に貢献する活動に取り組んでいます。

Nikon India Private Limited

SOS Children's Villages of India の活動を通じて、社会的養護が必要な子どもたち100名に対する家庭養育環境の提供に貢献しています。また、Magic Bus India Foundation の Youth Skilling Program を通じて、NEET (Not in Education, Employment, or Training) の若者約150名の雇用機会創出や技能開発支援に貢献しています。



Magic Bus India Foundation が職業訓練などを行っている生活センターに通う若者たちと、Nikon India Private Limited の従業員

Nikon Precision Taiwan Ltd.

毎年、福祉団体や児童養護施設に対し寄付による支援を行っており、従業員にも募金を呼びかけてマッチング・ギフトにも取り組んでいます。



福祉団体に寄付を届けるNikon Precision Taiwan Ltd.の従業員

Nikon Singapore Pte. Ltd.

社内でフードドライブを開催。使い切れない未使用食品などを持ち寄り、経済的に困窮する人々などへ食料支援を行うNPOに寄付しました。



社内のフードドライブに参加した従業員と集まった食品

Nikon Canada Inc.

毎年、ホリデーシーズンに、恵まれない子どもたちのためにトイドライブを実施しています。このチャリティーイベントは、従業員の惜しみない貢献により年々規模を拡大しています。



従業員たちがトイドライブに持ち寄ったプレゼント

Nikon Europe B.V.

Nikon Europe B.V. フランス支店では、ハンディキャップの実情や障がいのある学生の姿を伝える学生動画コンテスト「Tous HanScène」に2017年から協賛しています。



コンテストは障がいのある若者の学び機会の拡大を目的に開催されている

Nikon (Thailand) Co., Ltd.

従業員から飲み終えた飲料の紙パックを回収し、自然災害に遭って住宅問題を抱える方々にリサイクル屋根を届ける活動に寄贈しました。



リサイクル屋根2棟相当の紙パックが集まり、支援活動を行う団体に寄贈

Optos Plc

脳腫瘍治療支援団体のチャリティー活動「Wear A Hat Day」に参加。従業員の帽子をかぶった写真の投稿に対し、会社が団体に3,000ポンドのマッチング・ギフトを贈りました。



従業員たちから寄せられた、さまざまな帽子をかぶった写真